

書美術

題字は福島慎太郎初代理事長

公益財団法人
全国書美術振興会
会報
第36号
平成31年3月1日発行
発行者 (公財)全国書美術振興会
編集責任者 坂本敏史
東京都港区赤坂 2-11-1
デルックス溜池山王 6階



私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

新会長に田中壮一郎特別顧問が就任

平成30年12月3日、定時評議員会が開催され、任期満了に伴う理事・監事の改選が行われた。今回の改選により、平成23年から会長を務めた荒船清彦会長が退任し、評議員会後に開かれた新理事・監事による理事会により、田中壮一郎特別顧問が新代表理事・会長に就任した。高木聖雨代表理事・理事長は重任となった。

いあいおつ

会長 田中壮一郎

昨年十二月、皆様の御推挙をいただき会長に就任させていただきました田中壮一郎でございます。

全国書美術振興会は、書美術の本質を究明するとともにその振興を図り、我が国の芸術文化の発展に寄与するという崇高な目的を掲げ、全国の著名な書家の皆様方が流派を超えて創立されたとうかがっております。このような伝統ある公益法人の会長として荒船前会長の後を引き継ぐには、あまりに浅学非才の身ですが、全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので何卒よろ



しく御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

ご挨拶のためにかなり広いスペースをいただきましたが、書に関する知識も業績もございませんので、恐縮ですが自己紹介を兼ねて私のこれまでの書との

関わりを書かせていただきます。
私は、昭和二十四年香川県高松市に生まれ、小学校一年生の頃両親にすすめられ「お習字」を習いに通い始めたのが書との出会いでした。ある日先生から「今日は練習のあと『手』の検査をする」と言われ、練習後、先生の前に『手』を出すと、私の手は墨でまっ黒、その結果「田中君は0点」と言われ大変恥ずかしかったことを今日でも忘れられません。
中学校時代には某新聞社の香川県版だと思いますが、紙上展に掲載されたことがありました。ただ、その評価コメントに「筆がびびっている」旨が記されていたため、両親が急に千円もする筆(当時私が使っていた筆は三百円程度)を買ってくれたこと思い出されます。
昭和四十年に香川県立高松高等学校に入学すると、小学校の頃通っていた「お習字」教室の先輩から勧誘され、練習後の喫茶店でのデザートにつられて書道部に入部しました。入部後は、夏休みの合宿の復活をはじめ、もっぱらレクリエーション活動の充実に努めました。

しかし何故か「書道部」が好きで、大学入学後も夏の合宿には毎年参加しました。最後の八回目(高校三回、大学五回)の合宿に顔を出した時には、顧問の先生から「来年は来るな。きちんと就職しろ」としかられました。昭和四十三年に入学した東京大学でも書道部に入ったのですが、学生紛争等があり、途中からは幽霊部員になってしまいました。ただ、詩吟同好会にも属し、駒場祭で一度だけ書道吟を演説させていただきました。
昭和四十八年に文部省に入省しましたが、職務の上では何故か文化と縁がなく、一度も文化庁で勤務することはできませんでした。ただ香川県の教育長時代(平成六年四月から三年間)には文化・芸術も担当させていただきました。特に平成八年には日展の巡回展が高松で開催されました。その際、故大山忠作日展理事長や尾崎邑鵬先生をお迎えできたことは本当に光栄でした。
平成二十年に国立青少年教育振興機構の理事長に就任させていただきましたが、ここで「書き初め」大会の開催に取り組みました。

同機構は、東京のオリンピック記念青少年総合センター(略称オリセン)と青少年交流の家(十三施設)、青少年自然の家(十四施設)を運営しています。が、オリセン以外の施設では自然体験や生活体験、スポーツ活動が中心であり、芸術や文化活動は停滞ぎみでした。このため、私は、まずお正月に東京のオリセンで、我が国の伝統文化である「書き初め」大会を開催し、全国の高校生や大学生に参加してもらいたいと考えたのです。そこで、文部省の先輩であり、本書美術振興会の元事務局長でもあった故佐藤常雄氏に相談し、高木聖雨先生を御紹介いただきました。その後全国高等学校文化連盟はじめ多くの方々の御協力を得ることができ、平成二十三年一月「第一回全国青少年書き初め大会」を開催することができました。その後も毎年開催されており、本年一月六日には第九回大会が開催されました。私的なことを書きつらねましたが、今後は「日本の書展」をはじめ本会事業の充実発展のため微力を尽くしたいと思っております。また、我が国のはこれら伝統文化である書道がしっかりと継承発展されるよう書写書道教育の一層の推進、更に、日本の書道文化がユネスコ無形文化遺産に速やかに登録されるよう、皆様方と一丸となって取り組んでまいりたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

田中壮一郎 略歴

昭和24年(1949)香川県生。東京大学法学部卒業後、文部省に入省。教育助成局教職員課長、学術国際局研究機関課長から、香川県教育委員会教育長。文部科学省スポーツ・青少年局長、生涯学習政策局長、文部科学審議官。前独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長。

第46回「日本の書展」

関西展から九州展まで直轄4展の総出品数は3584点、各会派の協賛を得て、出品点数は前回から121点増加した。また、第46回展から、関西展の会場をこれまで使用してきた大阪国際会議場から天王寺のマイドームおおさかに移し、会期も5月の大型連休中に変更した。入場者数は全展で1万4526人だった。

関西展

平成30年5月3日(木祝)

5月5日(土祝)

会場 マイドームおおさか

主催 (公財)全国書美術振興会・産経新聞社

後援 文化庁

協賛 (公社)日本書芸院

ギャラリートーク

5月4日(金祝)

明石聴濤評議員(漢字・委嘱)



井茂圭洞名譽顧問



荒船清彦会長



ギャラリートーク 明石聴濤評議員



出品数は、巨匠14点、代表98点(計112点が全展を巡回)、委嘱32点、招待410点、秀拔選521点、合計1075点、入場者数は約20000人だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をしている。

会期初日の5月3日(木祝)、シティプラザ大阪で、350人の出席による開幕祝賀会を行った。主催者を代表して荒船会長から、書写・書道教育推進協議会と日本書道ユニスコ登録推進協議会について触れた挨拶があり、続いて産経新聞社齋藤専務取締役・大阪代表から共催者

中部展

平成30年5月23日(水)

5月27日(日)

会場 名古屋市博物館

主催 (公財)全国書美術振興会・中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送

協賛 (公社)中部日本書道会

挨拶、井茂圭洞名譽顧問からは「今展は1000点以上出品が増えていて。書家がいろいろ工夫し、働きかけをすればまだまだ書の底力が潜在していると思う」との挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。



樽本樹郎顧問



ギャラリートーク 伊藤仙游評議員

ギャラリートーク
5月26日(土) 伊藤仙游評議員(漢字・委嘱)

愛知県美術館が全館改修工事のために使用できず、名古屋市博物館一会場での開催。出品数は、巨匠、代表112点、委嘱17点、招待187点、秀拔選485点、合計801点、会期中の入場者数は約22000人だった。中日新聞紙面での展覧会紹介、会期翌日には東海テレビ放送での放映があった。

5月24日(木)、名古屋東急ホテルで約270人の出席による開幕祝賀会を行った。高木理事長、荒船会長から主催者代表挨拶、共催の中日新聞社小山勇常任顧問から挨拶があった後、出品書家を代表して樽本樹郎顧問から挨拶があり、東海テレビ放送山口貢取締役事業局長の乾杯の発声で祝宴に入った。

東京展

平成30年6月14日(木)

6月24日(日)

会場 国立新美術館

主催 (公財)全国書美術振興会・共同通信社

後援 文化庁

ギャラリートーク

6月16日(土) 高木厚人理事

(かな・現代書壇代表)

6月23日(土) 永守蒼穹監事

(近代詩文・現代書壇代表)

出品数は、巨匠、代表の112点、委嘱43点、招待644点、秀拔選772点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱59点も同時に展示し、総展示数は1630点になった。入場者数は約9000人だった。

6月15日(金)、パレスホテル東京にて開幕祝賀会を行い、460人の出席があった。高木理事長から主催者挨拶、続いて衆議院本会議が控える中、出席いただいた衆議院議員、書道国會議員連盟会長の河村建夫氏から「日本の伝統文化の中で書が果たす役割、また日本の文化を発信する上での書の役割は大変大きいものがある。みなさんと力を合わせて日本の書道文化をさらに高みに持っていくように頑



高木聖雨理事長



張っていききたい」と、日本書道をユネスコの無形文化遺産へ登録を目指す運動について触れる来賓祝辞があり、続いて衆議院議員、書道国會議員連盟会長代行の塩谷立氏から「日本人がいちばん慣れ親しんでいる伝統文化の書道、これを子どもたちにも教え、海外の人たちにもしっかりと認識していただくためにみなさんともに頑張っていきたい」との挨拶と乾杯の発声があった。引き続き、荒船会長から主催者代表挨拶、共同通信社



衆議院議員・書道国會議員連盟会長代行 塩谷立氏



衆議院議員・書道国會議員連盟会長 河村建夫氏

平成30年6月28日(木)
～7月3日(火)～
会場 福岡アジア美術館
主催 (公財)全国書美術振興会・西日本新聞社
後援 文化庁
ギャラリートーク
6月30日(土) 山口耕雲先生
(漢字・現代書壇代表)
例年7、8階の2フロアで開催しているが、今回は7階のみ、

九州展

岩永陽一代表取締役常務から共催者挨拶があり、井茂圭洞名誉顧問から書家代表挨拶ののち祝宴に入った。



ギャラリートーク 永守蒼穹監事



ギャラリートーク 高木厚人理事



ギャラリートーク 山口耕雲先生



九州国立博物館
島谷弘幸館長

展示入れ替えでの開催となった。出品数は、巨匠、代表の112点、委嘱10点、招待137点、秀拔選214点、合計473点、会期中の入場者数は約1300人だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。

6月28日(木)、ホテルオークラ福岡で開幕祝賀会を行い約100人の出席があった。高木理事長、荒船会長から主催者挨拶、西日本新聞社営業部長の安武弘子氏から共催者挨拶があり、九州国立博物館島谷弘幸館長から「書のユネスコへの登録運動は、ひとえに書の底辺を拡大し、日本文化を世界に発信する思いで行っていることと思う。継続的に次の時代に文化を伝えることを大切にいくことが今後の国際交流や日本の文化の発展、



公募臨書(東京展会場内)
平成30年6月14日(木)
～6月24日(日)～
会場 国立新美術館
書の基本である臨書の公募展で、7回目の開催。応募数は952点。当会役員で構成される審査員9人による厳正な審査が行われ、その中から458点(漢字345点、かな107点、篆刻6点)が入選した。応募者

観光力、すべてにつながる」との言葉と乾杯の発声により祝宴に入った。



巡回展

全員には審査結果と審査所感を送付し、入選した作品は表装され「日本の書展」東京展の会場に前期と後期に分けて展示された。作品は展示終了後、入選證と一緒に入選者に届けられた。

今回も「日本の書展」の直轄四展が終了後、巨匠、代表の作品112点が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国8会場を巡回している。地元作家の作品も併せて展示され、特徴ある展覧会を開催している。

○富山(北日本新聞社)
平成30年7月12日～7月15日
富山県民会館

○米子(山陰中央新報社)
平成30年9月1日～9月4日
米子市美術館

○青森(東奥日報社)
平成30年9月6日～9月10日
青森市民美術展示館

○広島(中国新聞社)
平成30年9月27日～10月2日
福屋広島駅前店

○岡山(山陽新聞社)
平成30年10月17日～10月22日
天満屋岡山店 6階葦川会館

○奈良(奈良新聞社)
平成31年2月20日～2月24日
奈良県文化会館

○長野(信濃毎日新聞社)
平成31年2月28日～3月5日
ながの東急百貨店

○茨城(茨城新聞社)
平成31年4月13日～4月18日
茨城県立県民文化センター

子どもの毛筆体験教室 「筆もじにトライ！」開催

平成30年8月11日(土祝)・12日(日)

会場 3331 Arts Chiyoda(アーツ千代田3331) コミュニティスペース(旧練成中学校)

全国書美術振興会として初めての試みとなる、子どもを対象とした毛筆体験教室を開催した。この企画は、国立青少年教育振興機構の平成30年度子どもゆめ基金からの助成を受け開催。3歳から小学校3年生まで、初めて筆に触れる参加者も含め、2



日間で113名の参加があった。子どもたちは講師に質問をしたりアドバイスを受けながら、書きシートで思い切り練習し、本番のうちわ2本に墨と筆で文字や線を加えて立派に完成させ、笑顔あふれる賑やかな2日間となった。

日本書道ユネスコ登録 推進協議会の活動報告

第10回協議会を平成30年11月8日に開催し、役員の改選や活動報告、今後の運動の方向性について協議した。

(1) 協議会新組織

協議会会長荒船清彦氏が11月8日付で特別顧問に就任し、協議会新会長には現特別顧問の田中壮一郎氏が就任すること、また、高木聖雨総務部長兼実務者会座長が協議会副会長を兼任することが承認された。

(2) 書道文化に関する基礎調査の実施(平成30年3～8月)

協議会では、平成29年に調査委員会を設置し、平成30年3月から8月にかけて、アンケート調査を実施した。日本において書道文化がどのような位置付けにあり、日常生活の中でどのように捉えられているか、また、今日の日本社会で書道文化が抱える問題点はどのようなものなのか、その実態を把握しようとした。調査は可能な限り広範な意見を得るために、小・中学校、高校・大学、一般の書道愛好

者、展覧会参観者、全国の書道団体、書道用品生産者・小売業者、表具店・設営業者など、今日の書道に関係すると思われる各所に幅広く回答を求めることにした。これに即して対象を大きく9つに分類、それぞれにアンケート内容を検討した。4万件近い調査依頼に対し、5千件以上(回答率13%強)の回答をいただくことができた(別表参照)。

この調査は、手書き文化自体が衰退する今日、生活文化としての書道の現状を詳細に把握して、適切な保護・振興策を検討するための基礎的な資料を作成することを目的としている。

アンケート結果は調査委員会において、集計・分析を進め、平成31年1月15日付で調査結果をまとめた報告書が出来上がり、文化庁や協力者に届けられた。

調査委員会では調査報告書

(2) 書道文化に関する基礎調査の実施 アンケートの概要

一調査対象、調査方法、回答締切日、配布総数は以下の要項で実施された。

調査対象	調査方法	回答締切日	配布総数	回答数	回答率
①小学校 (小中一貫校を含む)	JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)から発送	平成30年4月20日	19,889	2,735	13.75%
②中学校 (中高一貫校を含む)	JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)から発送	平成30年4月20日	10,273	1,425	13.87%
③高等学校・大学	(公社)日本書芸院から発送	平成30年6月15日	6,330	117	1.84%
④月刊『大東書道』 定期購読者	大東文化大学書道研究所から発送	平成30年5月7日	1,591	540	33.94%
⑤書道展に来場した未 就学児～高校生およ びその保護者	【謹慎書道会来場者】 1. 池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル4階「文字の水族館」 2. 静岡市民文化会館「文字の動物園」 3. 茨城県立県民文化センター「文字の動物園」	1. 平成30年3月22日 2. 平成30年5月13日 3. 平成30年8月6日		1. 37 2. 46 3. 45 計128	
⑥書道団体	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年5月31日	299	119	39.79%
⑦書道具の生産業者・ 卸問屋・メーカー・ 生産販売併業者	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日	631	70	17.90%
⑧書道具の小売業者・ 書道具店	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日		43	
⑨表具店・設営業者	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日	121	30	24.79%

で以下のように今回の調査をまとめている。

「今回のアンケートを通して、日本の生活に書が極めて自然に浸透していることが改めて理解された。毛筆で文字を書くことを通して文字言語の感覚を養い、精神的な充実感を得ることができるということを、日本社会で広く共有している。とりわけ書き初めは年中行事として、生活に根付いた国民的な創作活動と言って過言ではない。主要な正月行事として今日でも全国的にまんべんなく定着しており、日本人にとってはもともと親しみ深い伝統的な生活文化となっている。このほかにも毛筆で書かれた文字は、賞状や看板、年賀状をはじめとする手紙、のし紙・のし袋、各種の商品パッケージなど、さまざまな形で私たちの日常生活を彩っている。今日の書道が、伝統的な書法を背景とする日本の国民生活に根ざした文化であることが明確に理解された。

しかし、パソコンやスマートフォン、プリンターの普及などによって手書きの機会が減少し、書道人口が減少傾向にあることも如実に理解された。この現状に呼応して、毛筆文化の喪失に危機感を抱き、文化として継承していかなければならないという必要性を多くの人が感じていることも分かった。

書道は古来、言語として、



ピンバッジ
たて 2.2cm
×
よこ 1.6cm

また造形芸術として、さらには教育的な活動として日本文化の基底を形成し、深く根付いてきた。その環境は今日でも基本的に変わらない。書き初めが国民的な活動として今日でも活発に行われている現状を鑑みれば、この状況を疑う余地はないが、それだけに、特段の配慮がなくとも書道文化が存続しうると考えられてきたきらいがある。これまで、書道団体や教育現場などにおける自律的な活動に保護や継承という側面も委ねてきたが、今回改めて現状を確認してみたことによって、能動的に保護・継承に関する施策を打ち出して行かねばならない時期に差し掛かっていることが理解された。

(3) 協議会ピンバッジの制作
協議会では、平成28年4月から開設した日本書道ユネスコ登録推進基金への寄付金を、広報活動、印刷物の製作、調査研究費、会議費、事務局運営費などの運営資金として活用している。今回は、ロゴマークをデザインしたピンバッジを制作し、1口500円の寄付に対し、ピンバッジ1個を贈呈する「記念品付き寄付」の協力願いを書道団体や書道関連団体に行うことになった。

各団体へは平成31年1月に案内、申し込みチラシを配布し、申し込みいただいた団体には1月末からピンバッジをお送りしている。

書写・書道教育推進協議会の活動報告

平成29年3月に公示された次期学習指導要領の解説で「小学1、2学年において水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れる」と記述されたが、推進協議会としては、この水書指導の徹底を通して、書写指導の充実を働きかけていく方針を決めていた。そのために「水書用筆等を活用した書写の指導法 指導者研修会（略称：水書指導研修会）」を、推進協議会が作成した冊子やDVDを教材にして実施した。主に小学校の教員を対象に、水書用筆と水書用紙を用いて実際に体験してもらっている。今年度は協議会構成団体の全日本書写書道教育研究会（全書研）の協力の下に、文部科学省の後援名義使用許可を得て、4会場で開催した。

■東京会場
平成30年7月25日（水）
会場 港区立本村小学校
共催 東京都教育委員会
約100名の参加

■大阪会場
平成30年8月10日（金）
会場 大阪府立桃谷高等学校
後援 大阪府教育委員会・大阪府立桃谷高等学校
約60名の参加



使用した冊子と水書用筆・水書用紙

■埼玉会場
平成30年8月20日（月）
会場 文教大学越谷キャンパス
後援 埼玉県教育委員会・文教大学
約150名の参加



■札幌会場
平成31年1月17日（木）
会場 ちえりあ（札幌市生涯学習センター）
後援 北海道教育委員会・札幌市教育委員会
約80名の参加

この研修会で用いられる水書用筆、水書用紙等は用品業者約8社に試作品などを提供していただいた。

これからも、4年間、水書指導研修会を全国で実施していく。

展示会案内

第47回「日本の書展」

関西展

2019年5月3日（金祝）
～5月5日（日祝）
マイドームおおさか（1・2階展示ホール）
午前10時～午後5時「最終日は午後4時まで」
主催（公財）全国書美術振興会・産経新聞社
後援 文化庁
協賛（公社）日本書芸院
○ギャラリートーク

5月4日（土祝）午後2時～
吉川美恵子評議員（かな・現代書壇代表）

中部展

※（会場）開催

〈第1会場〉
現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱・招待・秀拔選（一部）
2019年6月5日（水）
～6月9日（日）

愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）
午前10時～午後6時「7日（金）は午後8時まで、最終日は午後4時まで、入館は各日も閉館30分前まで」
〈第2会場〉
秀拔選
2019年6月4日（火）
～6月9日（日）

名古屋博物館（3階ギャラリー）
午前9時30分～午後5時「最終日は午後3時まで、入場は各日も閉館30分前まで」
主催（公財）全国書美術振興会・中日新聞社
後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市・各県市教育委員会・東海テレビ放送
協賛（公社）中部日本書道会
○ギャラリートーク

東京展 公募臨書

2019年6月13日（木）
～6月23日（日）
〈18日（火）は休館日〉
国立新美術館（1階展示室1A・1D）
午前10時～午後6時「入場は午

後5時30分まで」

主催 (公財)全国書美術振興会・
共同通信社

後援 文化庁

○ギャラリートーク

6月15日(土)午後2時

宮負丁香評議員(漢字・委嘱)

6月22日(土)午後2時

齊藤紫香先生(かな・委嘱)

九州展

※現代書壇巨匠・現代書壇代表・
委嘱は通期展示、招待・秀拔選
は前期・後期に分けて展示
2019年6月27日(木)

〓7月2日(火)

〔前期〕6月27日(木)

〓6月29日(土)

〔後期〕6月30日(日)

〓7月2日(火)

福岡アジア美術館(7階企画ギャ
ラリー)

午前10時〜午後8時「6月29日
(土)および7月2日(火)は午後
5時30分まで、入館は各日とも
閉館30分前まで」

主催 (公財)全国書美術振興会・
西日本新聞社

後援 文化庁

○ギャラリートーク

6月29日(土)午後2時

松清秀仙評議員(漢字・現代書壇
代表)

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品
が、当会と共同通信社、地元各
新聞社の共催、文化庁後援のも
と全国を巡回。

富山 (北日本新聞社)

2019年7月19日〜7月22日

富山県民会館

島根 (山陰中央新報社)

2019年8月29日〜9月2日

島根県立美術館

青森 (東奥日報社)

2019年9月6日〜9月9日

News TO-Oビル

広島 (中国新聞社)

2019年10月3日〜10月8日

福屋広島駅前店 催事場

岡山 (山陽新聞社)

会期 調整中

天満屋岡山店 6階葦川会館

奈良 (奈良新聞社)

2020年2月19日〜2月23日

奈良県文化会館

長野 (信濃毎日新聞社)

会期・会場 調整中

茨城 (茨城新聞社)

2020年4月18日〜4月23日

茨城県立県民文化センター

※開催情報は変更となる場合があります

子どもの毛筆体験教室

「筆もじにトライ!2019
〜オリジナルうちわを作ろう〜」

初めて毛筆に触れる子どもや
毛筆経験が浅い子ども対象の体
験教室。色柄のうちに、墨と
筆で文字や線などを加えて、オ
リジナルのうちわを仕上げる。
水書きシートを使ったり墨磨り
体験をしたり、毛筆の楽しさを
体験してもらう。

2019年8月5日(月)〜7日

(水)の3日間

会場 日本芸術院会館 講堂

(上野恩賜公園内)

募集対象 3才〜小学校3年生
の子ども(保護者同伴必須)

参加費・材料費 無料

定員 各回30人

◇スケジュール

8月5日(月)

A 13時〜14時10分

B 15時〜16時10分

8月6日(火)

C 10時30分〜11時40分

D 13時〜14時10分

E 15時〜16時10分

8月7日(火)

F 10時30分〜11時40分

G 13時〜14時10分

H 14時40分〜15時50分

申込み受付期間

5月上旬から先着で受付

詳細は4月中旬、当会ホーム
ページに掲載。申込みは専用申
込みフォームのみにて受付。

全国書美術振興会 役員

代表理事・会長 ※印=新任

〇田中壮一郎

代表理事・理事長

高木 聖雨

業務執行理事・常務理事

石飛 博光 黒田 賢一

田中 節山 仲川 恭司

星 弘道

理事

有岡 郊崖 市澤 静山

〇伊藤 一翔 太平 匡昭

角元 正燦 師田 久子

高木 厚人 辻元 大雲

土橋 靖子 中村 伸夫

真神 巍堂 横山 煌平

監事

牛窪 梧十 永守 蒼穹

〇和中 簡堂

※任期 2018年12月3日〜2020
年12月開催予定の定時評議員会の終結時

評議員

明石 聰濤 石澤 桐雨

伊藤 仙游

井上 清雅

今関 敏子

岩永 栖邨

海野 涛山

〇岡野 楠亭

鬼頭 翔雲

霜鳥 秋則

鈴木 響泉

田頭 一舟

〇長井 素軒

深瀬 裕之

舟尾 圭碩

松清 秀仙

宮負 丁香

森上 光月

山根 互清

吉川 美恵子

吉澤 鐵之

※任期 2015年12月7日〜2019
年12月開催予定の定時評議員会の終結時

名譽顧問

鈴木 勲

日比野 光鳳

尾崎 邑鵬

津金 孝邦

顧問

新井 光風

梅原 清山

大井 錦亭

樽本 樹邨

参事

赤江 華城

石田 雲鶴

〇今村 桂山

植松 弘祥

江幡 春涛

岡田 契雪

芝 松翠

師村 妙石

鈴木 春朝

内藤 富卿

井上 映粧

井之上 南岳

岩田 海道

植松 龍祥

大澤 城山

尾崎 蒼石

笹原 宏之

杉本 新

〇関根 玉振

田中 徹夫

西村 東軒

福光 幽石

古谷 稔

松下 英風

室井 玄聳

山中 翠谷

山本 高邨

吉澤 大淳

吉田 成美

〇荒船 清彦

井茂 圭洞

小山 やす子

池田 桂鳳

榎倉 香邨

杭迫 柏樹

中野 北溟

飯高 和子

一色 白泉

岩井 韻亭

江口 大象

大西 きくゑ

加藤 子華

清水 透石

鈴木 一敬

辻元 邑園

中川 裕皓

中林 落風

中村 天香

西村 自耕

藤岡 都逕

前島 泉洲

松塚 玲糸

宮崎 葵光

村上 俄山

望月 和風

八木 山鈴

山本 悠雲

蕉仙

※任期 2018年12月3日

書美術功労者の顕彰

文化功労者となられた井茂圭
洞名誉顧問、日本芸術院賞を受
賞された土橋靖子理事の功労を
顕彰し、記念品を贈呈した。

近年物故者

次の役員の先生方が逝去され
ました。謹んで哀悼の意を表し
ます。

中島藍川先生(参事)

平成30年2月27日 89歳

古谷蒼韻先生(名誉顧問)

平成30年8月25日 94歳

土井汲泉先生(理事)

平成31年1月9日 71歳

泉原壽巖先生(現代書壇代表)

平成31年1月27日 77歳

事務所の案内

〒107-0052

東京都港区赤坂2-11-1デルッ

クス溜池山王6階

FAXTEL 03-3568-2071

ホームページ http://shobi.or.jp/

メールアドレス info@shobi.or.jp